

地域とつながる学びの場をつくる

— 図書館・美術館がつくる未来のカタチ —

地域の
特色ある
活動

山形県東根市教育委員会

1 はじめに

山形県東根市は、さくらんぼ生産量日本一、さくらんぼの王様「佐藤錦」の発祥の地であり、様々な分野で「さくらんぼ」にこだわったまちづくりを行っています。

東根市では、昭和33年の市制施行以来、土地区画整理事業をはじめとする社会資本整備を進めてきましたが、図書館は小さく、美術館はない状況で、芸術文化の環境整備が課題となっていました。

2 まなびあテラスの誕生

市中心部に、図書館、美術館、市民活動支援センター、都市公園の機能を併せ持つ「まなびあテラス」が平成28年11月3日文化の日にオープンしました。

まなびあテラスでは、従来の図書館や美術館が提供しているサービスだけでなく、地域のコミュニティの場として、さまざまな情報を収集・発信し、住民の憩いの場・交流の場として誰もが気軽に立ち寄れる親しみと温もりのある施設づくりを目指し、運営を行っています。

開館後の運営を含めた整備手法に、民間資金活用による社会資本整備（PFI）を導入し、民間による創意工夫を大いに取り入れました。

また、意見箱の設置や市民を交えた運営協議会の設置などを行い、市民意見の把握に努め、市民との協働によるまちづくりを心がけています。

平成30年10月でオープンから2年経過しましたが、60万人を超える来場者があり、市外県外からもたくさんの人が訪れる賑わいと活気のある文化施設に成長しました。

3 まなびあテラスが目指すカタチ

(1) 気軽に訪れやすい学びの場をつくる

① コーヒーとおしゃべりとともに 図書館

図書館は「多少の喧騒を包み込む賑わいのある図書館」をコンセプトに、小さなおしゃべりは寛容しています。施設内のカフェは図書館の中でつながっており、蓋つきの飲み物なら持ち込むことができます。公園の緑をながめながらコーヒーをかたわらに読書にふける学生、本を片手に周囲の迷惑にならない程度の会話を楽しむ子育て中のお母さんやご近所の年配者……。明るく自由な雰囲気図書館は、常に多くの市民が訪れる楽しい空間として市民に利用されています。収蔵能力は20万冊、電子書籍も読むことができ、自動貸出機やIC予約本受取棚など最新鋭の設備が導入されました。

また、幼児用図書が充実し、子育て中の親子の利用も増えました。読み聞かせをした後、絵本に出てきたお菓子を実際に親子で作って食べるカフェと連携した事業もありました。



② 若者を集める ティーンズコーナー・学習室 ライトノベルなど中高生のための本が並ぶ

独立したスペースです。隣には、集中して勉強できる学習室があります。多くの若者でいつも賑わっています。

③ アートを身近に 美術館・アトリエ

美術館は絵画や彫刻などのファインアートを鑑賞するだけではなくありません。開館以来、インスタレーション（空間芸術）、デジタル作品、工芸、家具、服飾など、若者も身近にアートを感じられる展覧会を開催し、これまで美術館に行ったことのない方々も気軽に足を運んでくれるようになり、アートに触れる機会が増えました。

また、4分割できる市民ギャラリーでは、市民自らの作品を展示できる環境が整い、創作・発表の動機づけとなっています。

アトリエは、木工教室や陶芸教室、藍染め体験など、さまざまな創作活動の場として利用され、アトリエを使って市民自ら制作したアート作品等を、照明設備の整った市民ギャラリーで展示するなど、まなびあテラス施設内での好循環の流れができています。

④ 市民の活動をつなぐ 市民活動支援センター

講座室では、まなびあテラスや各団体が主催する講演会、図書館や美術館と連携したワークショップなどを多数開催し、各機能が相乗効果を発揮しています。

⑤ 賑わいの中心に

市内小中高生や市民らと共同で作品を創り上げるアートプロジェクト、地域のお祭である「ひがしね祭」と連携した田楽提灯づくりワークショップ、東根の新たな冬の祭典ひがしねウィンターフェスティバルの開催など、まなびあテラスが単なる文化施設としてだけでなく、まちづくりの中核施設として、市の



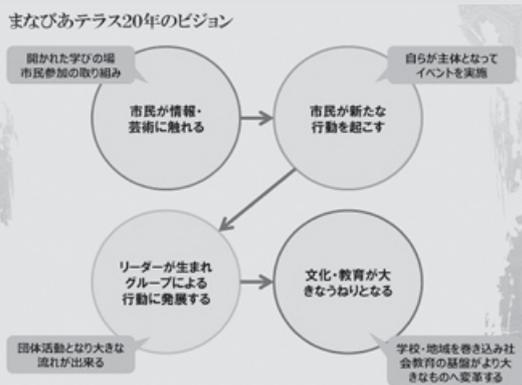
魅力を発信しています。さらに、ここを訪れた多くの人の流れがまちに広がり、まなびあテラスが周辺地域への周遊を導いています。

(2) 未来の担い手を育てる

まなびあテラスには、運営を支援するサポーター制度があり、一般サポーター、中高生対象のティーンズサポーター、小学生対象のジュニアサポーターの計58名（平成30年4月現在）の方が登録しています。オープン前から、メディアアート制作に参加してもらったり、ひがしね祭で開館のPRをしてもらうなど、様々な活動をしてきました。通年の活動として、図書館での本の整理や、ポップの作成、美術館での展覧会運営補助などの協力してもらっています。

4 まなびあテラス 20年のビジョン

まなびあテラスは、PFIによる20年間の事業期間に合わせて、常に成長し続けられるよう、スパイラルアップできるビジョンを持っています。市民が情報・芸術に触れ、刺激を受けた市民が新たな行動を起こす、そしてリーダーが生まれ、グループによる行動に発展し、文化・教育が大きなうねりとなって変革していく。そうして市民の間に芸術文化が浸透していくものと期待しています。



教育長
元木正史